

図 2-6-1 ①
昆虫類調査地点図
N-1 区(第 2 回・静岡県)



図 2-6-1 ②

昆虫類調査地点図

N-2 区(第 2 回・静岡県)

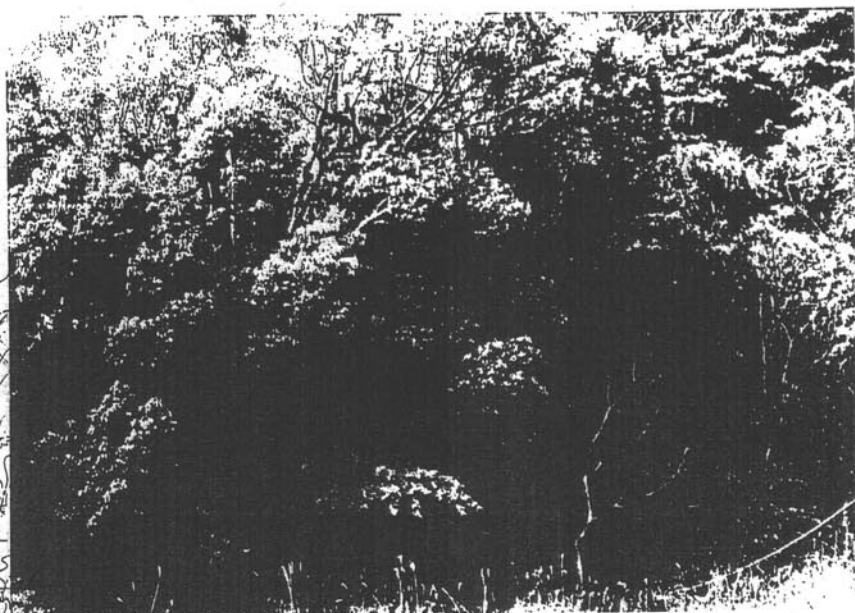


図 2-6-1 ③

昆虫類調査地点図

N-3 区(第 2 回・静岡県)



2-6-2. 第1回調査結果

全調査地点での確認種のリストを表 2-6-2 に示した。

調査地点ごとの調査結果は不明であり、全調査地点をあわせて 1 目 8 科 45 種を確認した。

確認種数は少なく、気象条件や調査地などの調査の条件に問題があったと考えられる。

表 2-6-2 第 1 回静岡県 3 地域全体確認種

番号	目名	科名	和名	特徴
1	チョウ	ヤガ	フタスジヨトウ	
2			カバイロシマコヤガ	
3			エゾギクキンウバ	
4			マダラエグリバ	
5			ヤマガタアツバ	
6			シラナミクロアツバ	
7			フジロアツバ	
8			シロテンムラサキアツバ	
9			ニセアカマエアツバ	
10			ツマオビアツバ	
11			クロスジアツバ	
12			オオシラナミアツバ	
13		キバガ	ウスギヌカギバ	
14		シャクガ	ヒメシロフアオシャク	
15			ヒメウスアオシャク	
16			コガタヒメアオシャク	
17			フタナミトビヒメシャク	
18			ウスベニスジヒメシャク	
19			セスジナミシャク	
20			オオハガタナミシャク	
21			ホソスジナミシャク	
22			クロハグルマエダシャク	
23			ミヤマツバメエダシャク	
24			ウスクモエダシャク	
25			マエキトビエダシャク	
26			オオマエキトビエダシャク	
27			ミスジツマキリエダシャク	
28			ウラベニエダシャク	
29		フタオガ	クロオビシロフタオ	
30			クロホシフタオ	
31		イラガ	テングイラガ	
32		マドガ	ウスマダラマドガ	
33		メイガ	クビシロノメイガ	
34			コガタシロモンノメイガ	
35			シロスジエグリノメイガ	
36			シロアシクロノメイガ	
37			マエアカスカシノメイガ	
38			モンキクロノメイガ	
39			ヘリジロキンノメイガ	
40			アカシマメイガ	
41			ツマグロシマメイガ	
42		ハマキガ	アトキハマキ	
43			チャハマキ	
44			チャノコカクモンハマキ	
45			アトモンヒロズコガ	
合計	1 目	8 科	45 種	

2-6-3. 第2回調査結果

調査の結果について、地点別の確認種数と個体数を表 2-6-3 に、種ごとの捕獲個体数を表 2-6-4①～表 2-6-4③に示した。

N-1 地点では 2 科 5 種 626 個体、N-2 地点では 2 科 4 種 5 個体、N-3 地点では 2 科 5 種 52 個体、全地域あわせて 3 科 9 種 683 個体が確認された。

3 地点ともに確認種数は少なかったが、特に N-2 地点では確認個体数も少なかった。

N-1 地点は、3 地点中最も確認個体数が多く、オオクロツヤヒラタゴミムシは 2 回の調査をあわせて 320 個体を数えた。次いで多かったのがクロツヤヒラタゴミムシの 298 個体で、この 2 種が全確認個体数のほとんどを占めた。10 月と 11 月では確認種に明確な差はなかった。

N-2 地点は、確認種数、個体数ともに少なかったが、理由は不明であった。ただし、他の 2 調査地区では確認されなかったハネカクシ科のオオサビイロモンキハネカクシが 1 個体確認された。

N-3 地点は、N-1 地点と確認された昆虫相はほぼ同様であったが、確認個体数については N-1 地点に比べると非常に少なかった。また、オオクロツヤヒラタゴミムシは N-1 地点と同様に個体数が多かったが、クロツヤヒラタゴミムシは 1 個体と少なかった。

表 2-6-3 調査地点別確認種数（第2回静岡県）

月	科名	N-1 地点	N-2 地点	N-3 地点	合計
10 月	オサムシ	3 種 296 個体	1 種 2 個体	3 種 32 個体	4 種 330 個体
	ハネカクシ	—	1 種 1 個体	—	1 種 1 個体
	センチコガネ	—	—	1 種 3 個体	1 種 3 個体
11 月	オサムシ	3 種 328 個体	2 種 2 個体	2 種 7 個体	6 種 337 個体
	ハネカクシ	—	—	—	—
	センチコガネ	1 種 2 個体	—	1 種 10 個体	1 種 12 個体
合計		5 種 626 個体	4 種 5 個体	5 種 52 個体	9 種 683 個体

表 2-6-4① 第 2 回静岡県 N-1 地点確認種

科名	種名	個体数			特徴
		10 月	11 月	計	
オサムシ	シズオカオサムシ	4	—	4	
	クロツヤヒラタゴミムシ	96	202	298	
	オオクロツヤヒラタゴミムシ	196	124	320	
	ヤマトヒラタゴミムシ	—	2	2	
センチコガネ	センチコガネ	—	2	2	
合計	5	296	330	626	—

表 2-6-4② 第 2 回静岡県 N-2 地点確認種

科名	種名	個体数			特徴
		10 月	11 月	合計	
オサムシ	オオクロツヤヒラタゴミムシ	2	—	2	
	不明幼虫 1	—	1	1	
	不明幼虫 2	—	1	1	
ハネカクシ	オオサビイロモンキハネカクシ	1	—	1	
合計	4	3	2	5	—

表 2-6-4③ 第 2 回静岡県 N-3 地点確認種

科名	種名	個体数			特徴
		10 月	11 月	合計	
オサムシ	アカガネオオゴミムシ	1	—	1	
	シズオカオサムシ	2	—	2	
	クロツヤヒラタゴミムシ	—	1	1	
	オオクロツヤヒラタゴミムシ	29	6	35	
センチコガネ	センチコガネ	3	10	13	
合計	5	35	17	52	—

2-7. 重点モニタリング調査地域における人為的インパクトの整理

2-7-1. 景観構成要素の分布

①N-1地域：静大裏山地区（図2-7-1①）

ほとんどが森林で、その7割はアカマツ天然林が占め、スギ・ヒノキの植林地は少なかった。森林は全体的に手が入っておらず、放置された状態であった。アカマツは、落葉の堆積と天候に原因すると思われる松食い虫の被害に見舞われ、古木が急激に増加した。

ミカン畑や普通農地が小面積あったが、第2回調査時まで耕作は続けられていた。農地に通ずる農道が3本あり、農地までの間は使用され管理されていたが、それ以遠の部分は利用されず、森林化が進んだ。

②N-2地域：九能山地区（図2-7-1②）

N1区と同様にほとんどが森林だが、そのほとんどを照葉樹林が占めていた。特に樹齢の高い広葉樹からなる林分では、良好な生態系が保全されていた。これらの森林地帯は地形が急峻で浸食が進み、沢筋は野溪化して本流から順に治山工事が行われた。樹林地では林相の変化を引き起こすような人為的なインパクトはほとんどなかった。

一方南部では、久能山東照宮および静鉄日本平ロープウェイがあり、これらの利用のための関連施設や参道も設置されたため、人為的インパクトが大きかった。その他園芸農地が若干あった。なおこれらの施設等は第1回調査時と変化はなかった。

③N-3地域：有度山山頂地域（図2-7-1③）

一部にスギ・ヒノキの植林地を含んだが、約4割は広葉樹萌芽林が占めた。これらの植林地および二次林は手入れが行われず放置された状況であった。

またミカンや茶の栽培地があり、道路の近接する地域では良好な栽培が行われていた。しかし、遠地や小面積の耕作地では栽培が放棄され、急速に広葉樹林へと移行していた。同時にそのような場所へ通じる道路も使用されなくなったため荒廃し、管理が行われないうちに蔓やササの多い二次林へと変化してきた。